



これは昨夏、父の田舎に
帰省してた時の話

処類様



およそこの世のものとは思えない姿に恐怖しつつも



じつとりと蒸れた
甘い乳のような匂いに
抗うことが出来なかった









彼女の膣内はとても熱く
幾度となく果ててしまった

経験したことのない
快楽の波に溺れる度
頭が真っ白になった



しばらくして
彼女は満足したのか
去って行った

いつの間にか気絶していた僕は
倒れているところを助けられた

またこの場所を
訪れようと思う

しょうたぐいさま
完